

223  
聖徒伝 199

# 靈的戦いの 最大の防衛

ネヘミヤ記3～4章

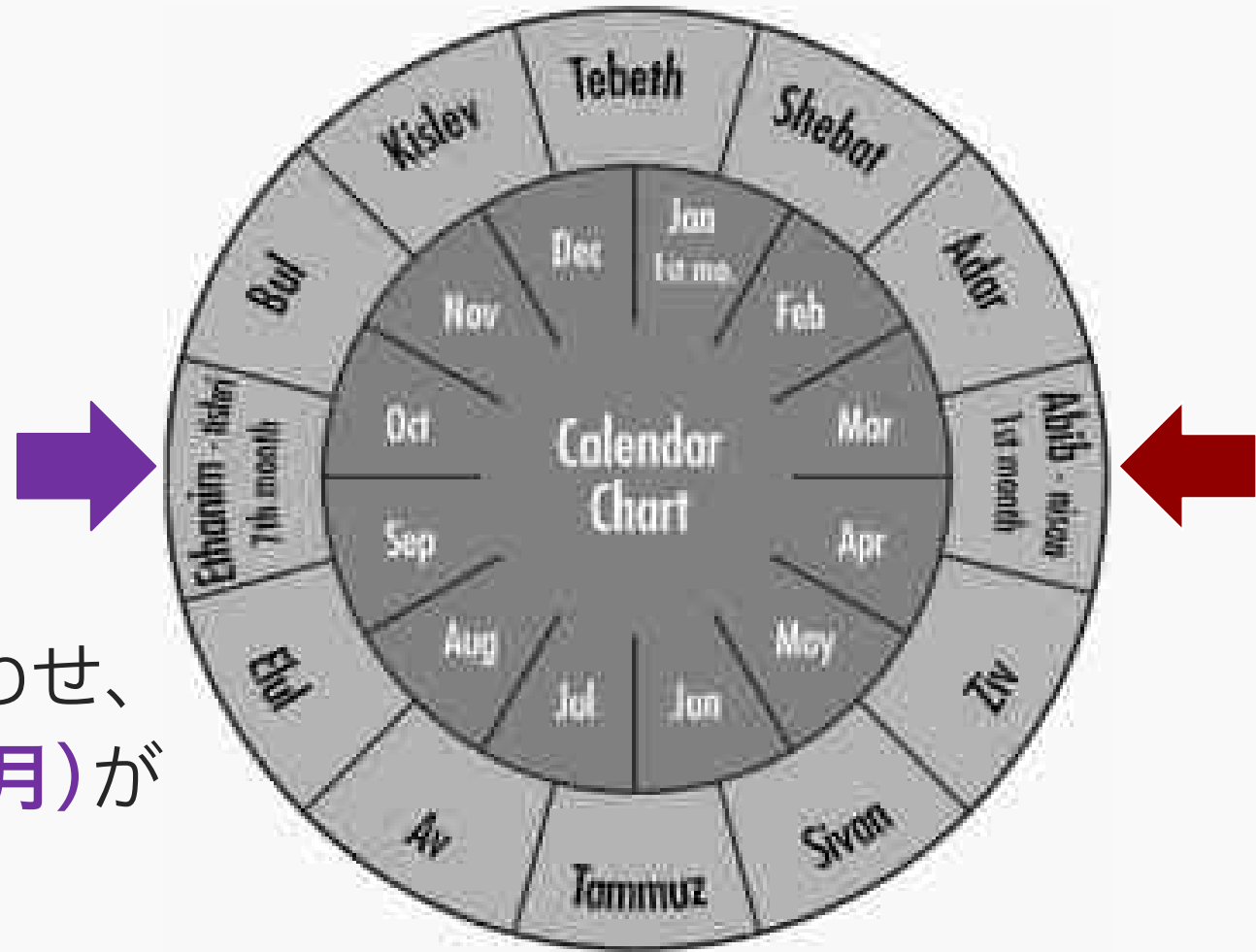
城壁再建工事の開始と妨害

Shikaoichurch.com

## 前回の質問・捕囚後の暦

■ 元来、年の初めは  
**ニサンの月(3~4月)**

■ バビロン捕囚以降、  
その地域の農耕年に合わせ、  
**ティシュリの月(9~10月)**が  
年の初めとなった。



# アウトライン

## 0. イントロダクション

I. 城壁工事の従事者たち 3章

II. 敵の妨害 4章

## III. まとめと適用

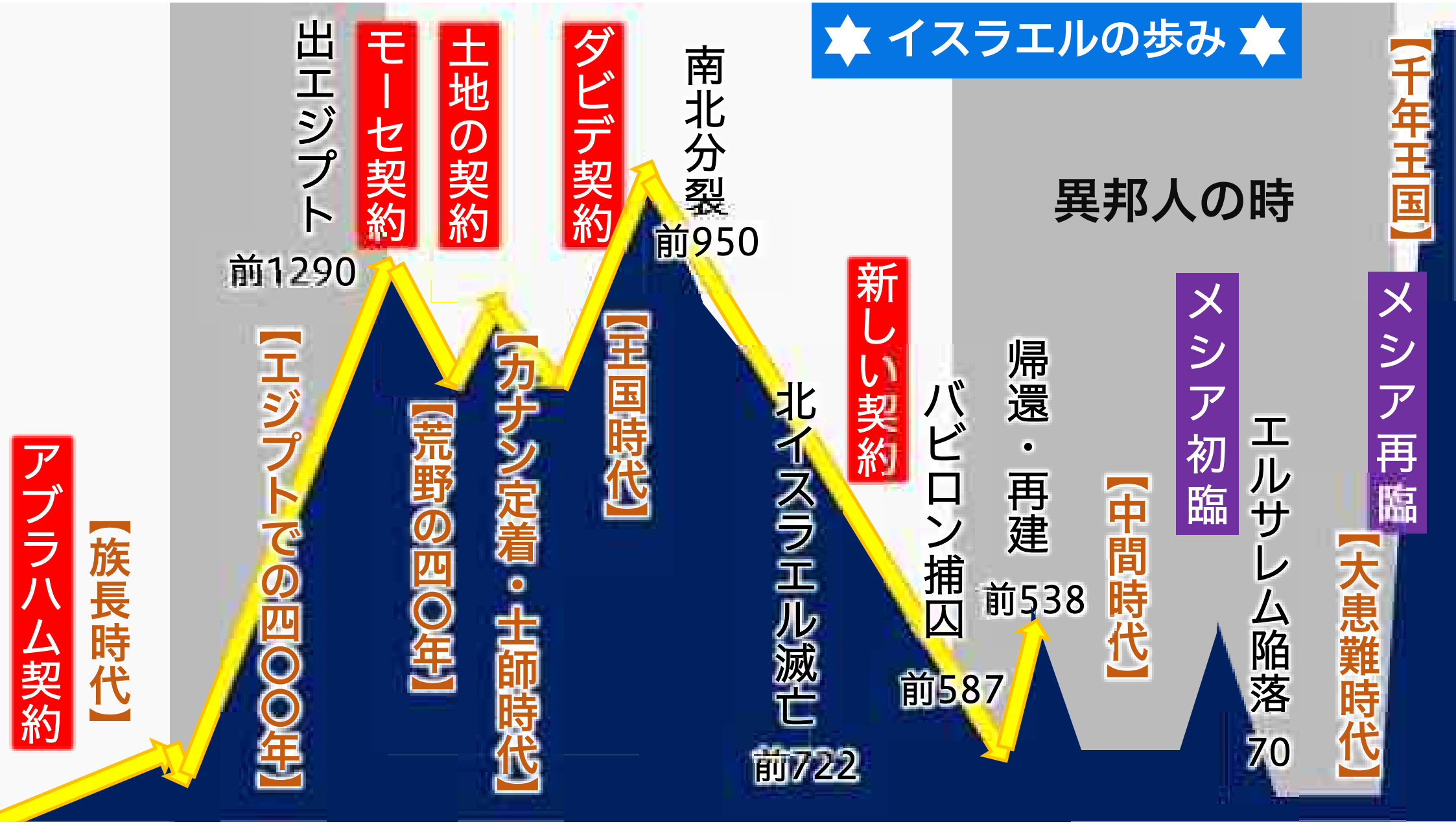
霊的戦いにおける

最大の防御とは？



ネヘミヤ時代の城壁

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト

前1290

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

異邦人の時

エルサレム陥落

70

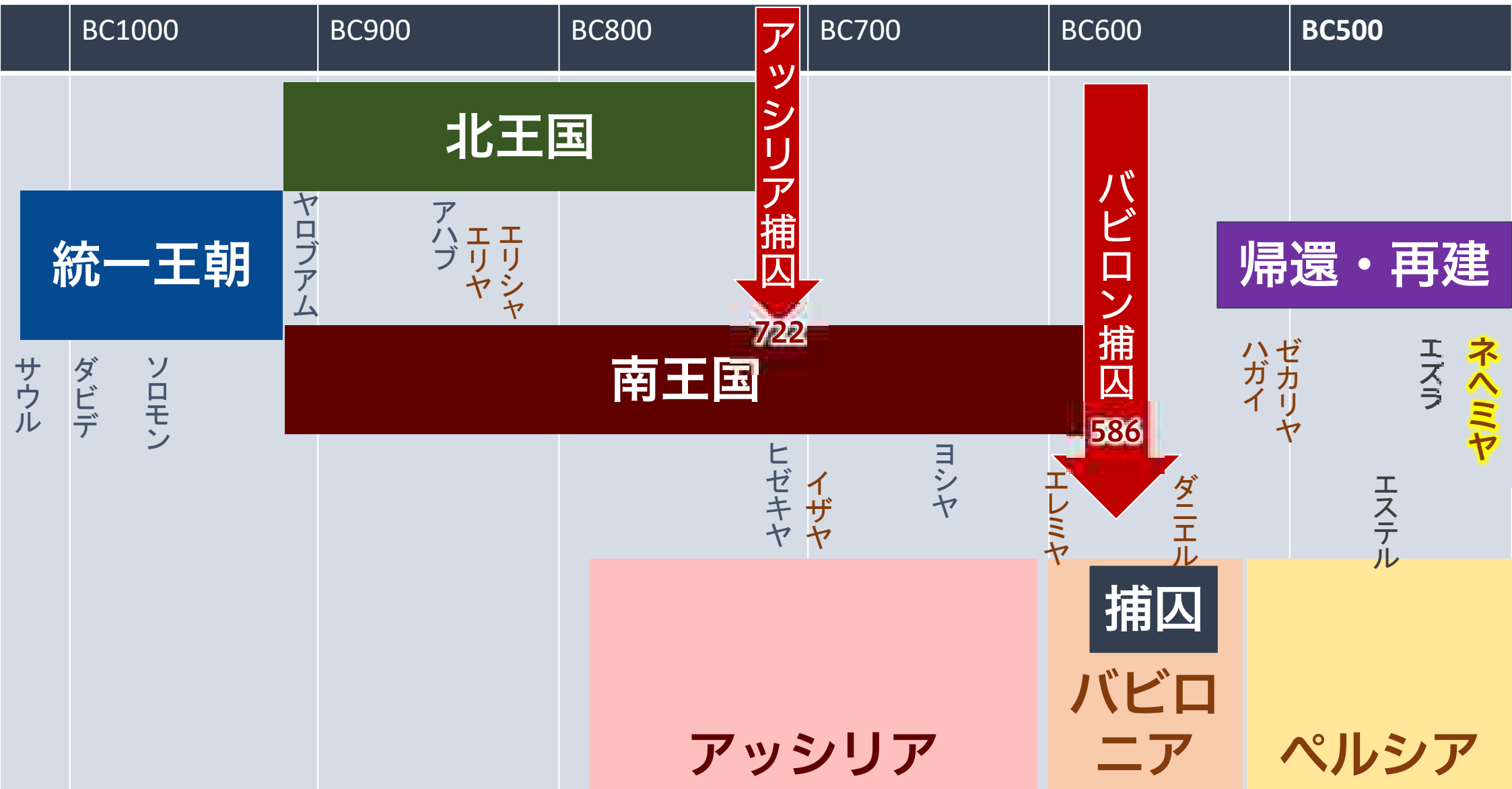
メシア初臨

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

# イスラエル王国史



## ネヘミヤ記の構成

1～6章	城壁の再建	1～2章	準備	
		3章	民の参加	
		4～6章	妨害	
7～13章	信仰の再建	7章	民の登録	
		8章	律法の朗読	
		9～13章	罪の告白と契約の締結	

## 年代表 捕囚後の時代

年代	イスラエル	ペルシャ
前538年	約5万人が帰還 ゼルバベル	バビロン陥落 キュロス王の布告
前520年	ハガイ・ゼカリヤの帰還	ダレイオス王 第2年
前515年	神殿の完成	
前476年	マラキ?!	エステルがペルシャの王女に クセルクス王
前458年 (80年後)	エズラ のエルサレム到着 律法の確認・霊的覚醒	アルタクセルクス1世
前444年 (14年後)	ネヘミヤが帰還・城壁再建	

ゼカリヤ書

エズラ記



# Ⅰ. 城壁工事の従事者たち

ネヘミヤ記4章

神殿の丘・東壁



## 城壁再建工事の原則

- ① 民それぞれに仕事を振り分けた
- ② 基本的に居住地・仕事場に近い場所を割り当てた
  - 周辺に住民が少ない城壁は、郊外に住む者たちが担当
- ③ 「羊の門」は、大祭司と祭司たちが担当
  - 神殿に犠牲の動物を運び入れる最も重要な門

それぞれの責任に応じて権限が委譲された!!

# ネヘミヤの時代のエルサレム

神殿



シエラフ(シロアム)の池

キテロンの谷

※記載は反時計回り

## 北側 大祭司 ネヘミヤ3:1~2

こうして大祭司エルヤシブ\*は、その仲間の祭司たちと、**羊の門**の再建に取りかかった。彼らはそれを聖別して、扉を取り付けた。そして**メアのやぐら**のところまで聖別し、**ハナンエルのやぐら**にまで及んだ。

その傍らではエリコの人々が建て、その傍らではイムリの子ザクル\*が建てた。

\*“神が復旧される” →ピツタリ!!

\*“心のこもった”

■ 神に仕える大祭司が工事の指揮に!!



## 北側 魚の門 ネヘミヤ3:3~4

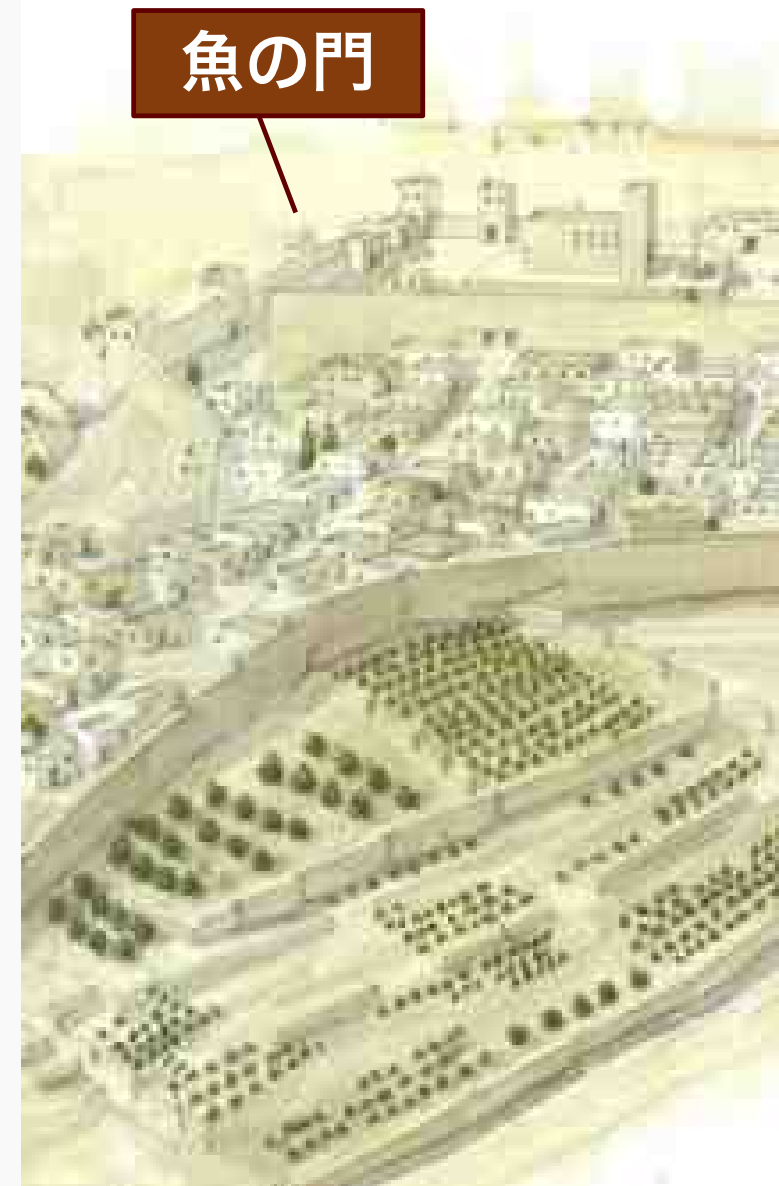
魚の門はセナア\*の子らが建てた。彼らは梁を置き、扉、錠、かんぬきを取り付けた。

彼らの傍らではハ・コツの子ウリヤの子であるメレモテが修復を行い、その傍らではメシェザブエルの子ベレクヤの子であるメシユラム\*が修復を行い、その傍らではバアナの子ツアドク\*が修復を行った。

\*“茨だらけ” \* “高い”

\*“友” …娘が敵トビアと結婚(6:18)

\*“正しい”



## 北側 テコア人 ネヘミヤ3:5

その傍らではテコア人\*たちが修復を行ったが、彼らの貴族たちはその上役に頭を下げることはなく、工事に協力しなかった。

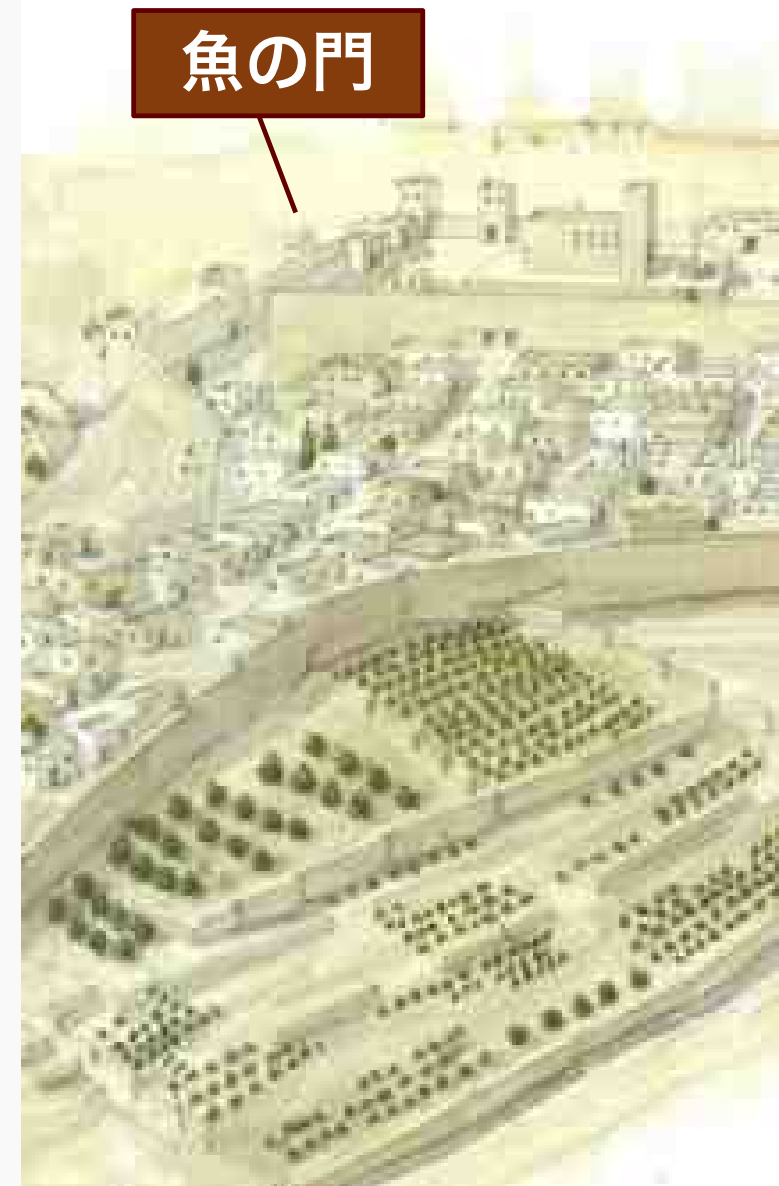
\*エルサレムの南20kmにある町

➡一般人だけが参加した

大祭司も参加しているのに!!

■どんな霊的大事業でも

参加しない人は参加しない!!



## 北西 エシャナの門 ネヘミヤ3:6~7

エシャナの門はパセアハの子エホヤダ\*と、ベソデヤの子メシュラム\*が修復を行った。彼らは梁を置き、扉、錠、かんぬきを取り付けた。

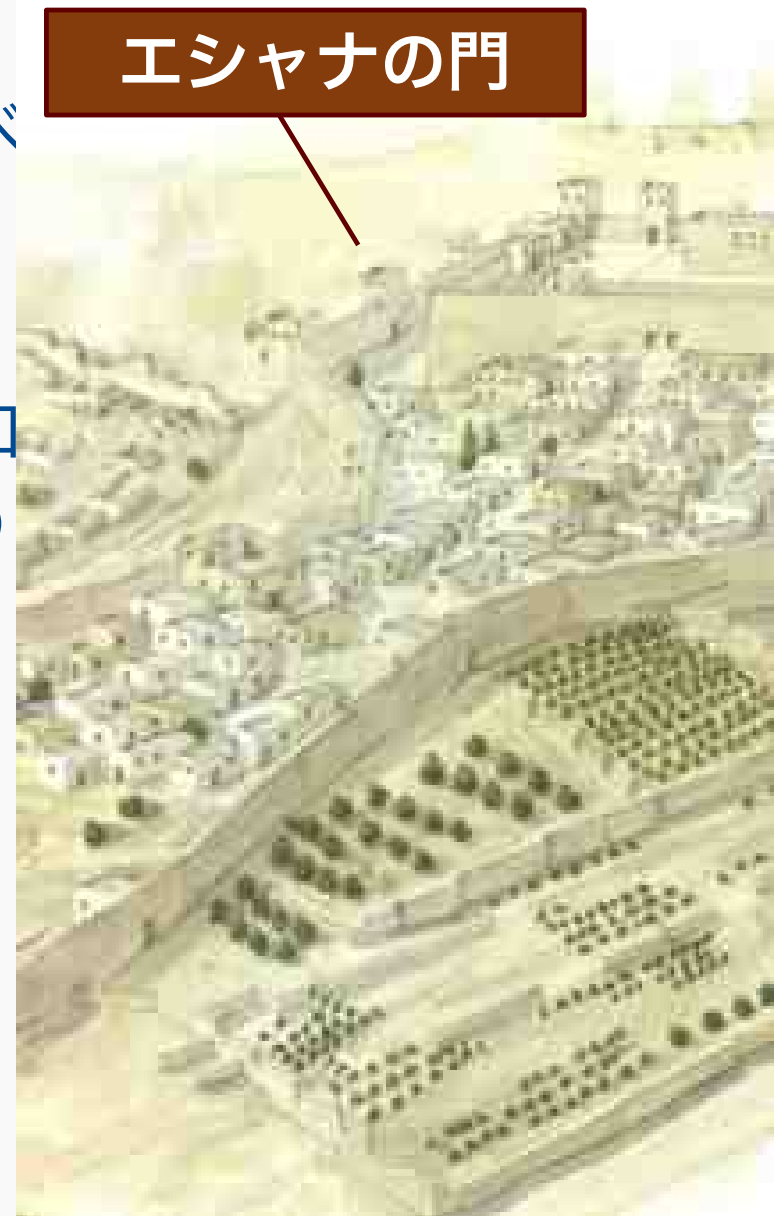
彼らの傍らでは、ギブオン人メラテヤ\*、メロノテ人ヤドン\*、それにユーフラテス川西方の総督の管轄に属する、ギブオンとミツパの人々が修復を行った。

\*“主は知っておられる” \* “友”

\*“ヤハウエが配られる” \* “ありがたい”

■ ペルシャの地方総督配下の者も参加。

エシャナの門



## 西側 幅広の城壁 ネヘミヤ3:8~9

その傍らでは金細工人のハルハヤの子ウジエル\*が修復を行い、その傍らでは香料作りの一人ハナンヤ\*が修復を行った。こうして、彼らはエルサレムを、幅広の城壁のところまで修復した。

その傍らでは、エルサレム地区の半区の長、フルの子レファヤ\*が修復を行った。

\*“我が強さは神にある” \* “主を恐れよ”

\*“ヤハウエの癒やし”

■職人たちも慣れない重労働に従事

捕囚前の市街地の城壁

幅広の城壁



## 西側 自宅のそば ネヘミヤ3:10

その傍らではハルマフの子エダヤ\*  
が自分の家のそばの部分修復し、  
その傍らではハシャブネヤの子ハト  
シュ\* が修復を行った。

\*“ヤハウエの賛美”

\*“集まった”



捕囚前の市街地の城壁

幅広の城壁



## 西側 炉のやぐら ネヘミヤ3:11~12

その続きの部分は、ハリムの子マルキヤ\*と、パハテ・モアブの子ハシュブ\*が、炉のやぐらと一緒に修復した。

その傍らでは、エルサレム地区の残りの半区の長、ハ・ロヘシュの子シャルム\*が、自分の娘たちと一緒に修復を行った。

\*“我が王はヤハウエ” \* “思いやりのある”

\* “報い”

■ 工事に参加したも女性たちも!!

炉のやぐら



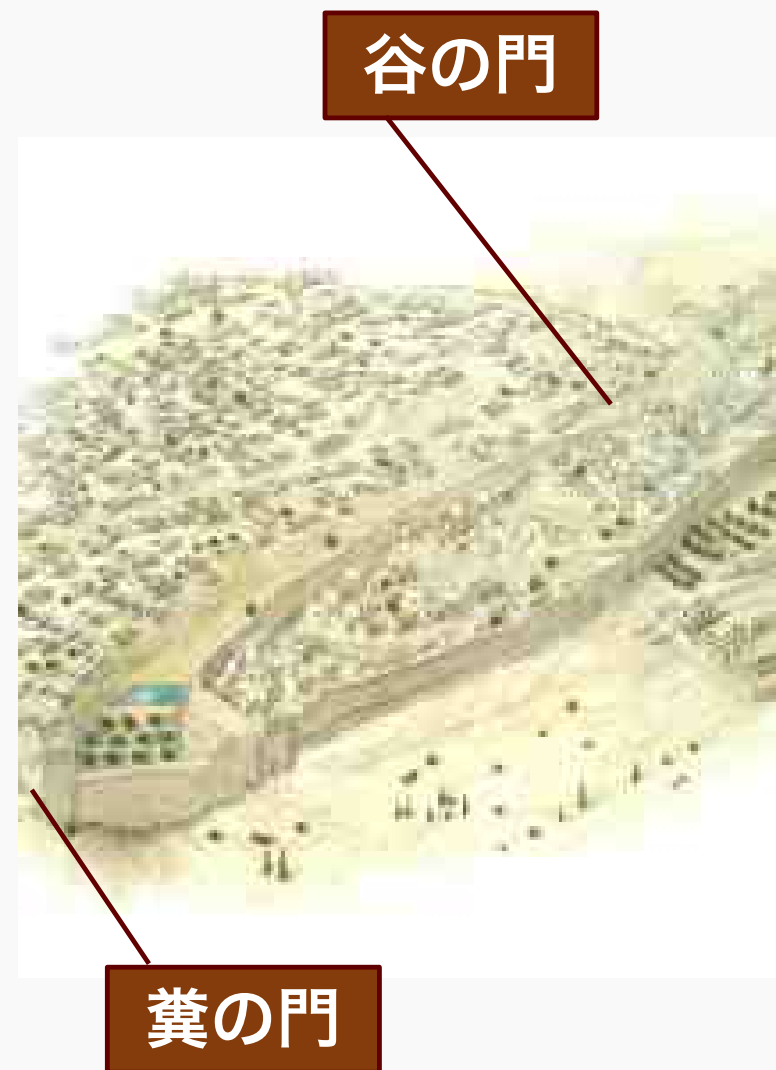
## 西南 谷の門・糞の門 ネヘミヤ3:13～14

谷の門はハヌンと、ザノアハの住民が修復を行った。彼らはそれを建て直し、扉、錠、かんぬきを取り付け、糞の門までの城壁千キュビトを修復した。

糞の門\*はベテ・ハ・ケレム地区の長、レカブの子マルキヤ\*が修復した。彼はそれを建て直し、扉、錠、かんぬきを取り付けた。

\*ヒノムの谷に汚物を捨てるための門

\*“我が王はヤハウエ”



## 南東 泉の門 ネヘミヤ3:15~16

泉の門はミツパ地区の長、コル・ホゼの子シャルン\*が修復した。彼はそれを建て直し、屋根を付け、扉、錠、かんぬきを取り付けた。また、王の園のシェラフの池の城壁を、ダビデの町から下って来る階段のところまで修復した。

その向こうでは、ベテ・ツル地区の半区の長、アズブクの子ネヘミヤ\*が、ダビデの墓地のそばまでと、人工貯水池までと、勇士たちの家のところまでを修復した。

\*“報い” \* “ヤハウエの慰め”



## 東側 東の城壁 ネヘミヤ3:17~18

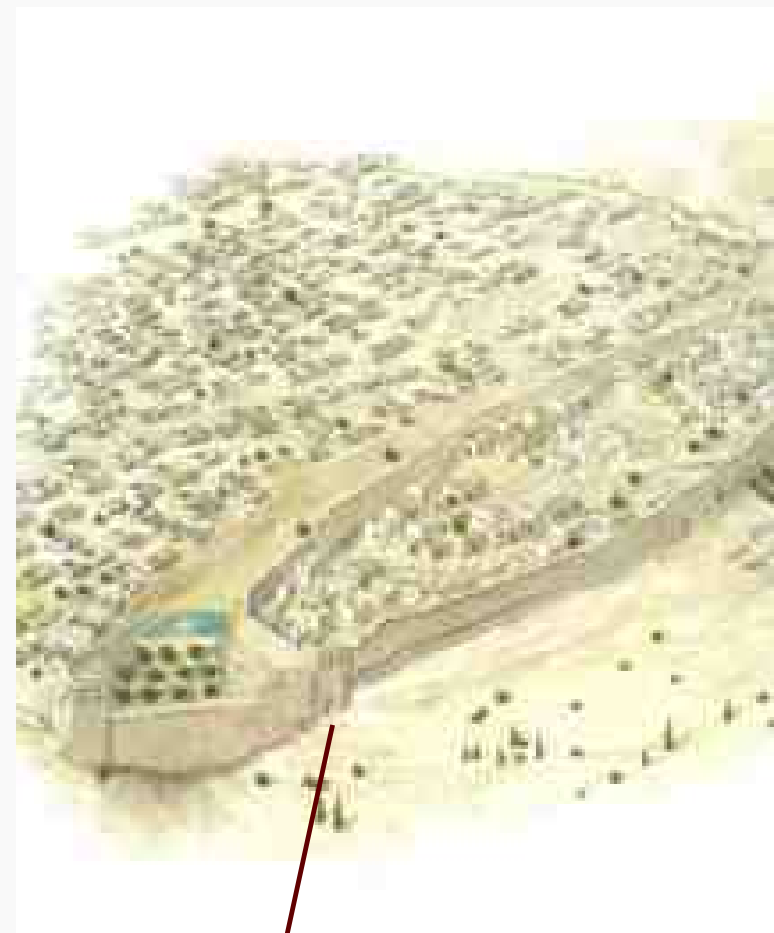
その向こうでは、バニの子レフム\*などレビ人たちが修復を行った。その傍らでは、ケイラ地区の半区の長、ハシャブヤ\*が自分の地区のために修復を行った。

その向こうでは、ケイラの残りの半区の長、ヘナダデの子バワイ\*など、彼らの同僚たちが修復を行った。

\*“憐れみ” \* “ヤハウエは考えられる”

\* “いたわり”

■ 神殿奉仕者のレビ人も工事に参加



泉の門

## 東側 曲がり角 ネヘミヤ3:19～20

その傍らでは、ミツパの長、ヨシュアの子エゼル\*が、**城壁の曲がり角**の隅にある武器倉に向かう上り坂のそばで、続きの部分を修復した。

その向こうでは、ザカイの子バルク\*が続きの部分を、**城壁の曲がり角**から大祭司エルヤシブの家の門のところまで熱心に修復した。

\*“宝物” \* “祝福された”

■ 曲がり角 → 以前の城壁よりも内側に縮小



城壁の曲がり角

## 東側 南の中央 ネヘミヤ3:21～22

その向こうでは、ハ・コツの子ウリヤの子メレモテ\*が続きの部分で、エルヤシブの家の門からエルヤシブの家の端まで、修復を行った。

その向こうでは、低地の人々である祭司たちが修復を行った。

\*“高い”

…魚の門の工事も担当(3:4)



城壁の曲がり角

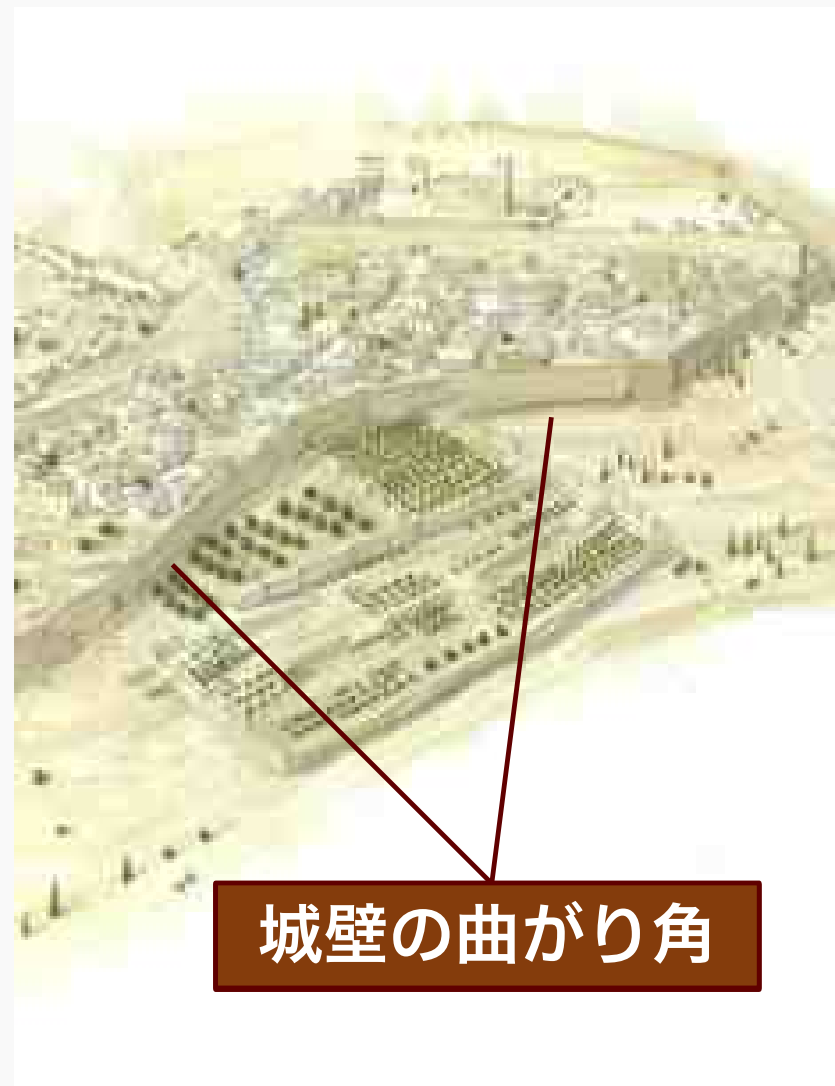
## 東側 東の城壁 ネヘミヤ3:23～24

その向こうでは、ベニヤミン\*とハシュブ\*が自分たちの家のそばの部分修復した。その向こうでは、アナネヤの子マアセヤの子アザルヤ\*が自分の家の近くを修復した。

その向こうでは、ヘナダデの子ビヌイ\*が続きの部分、アザルヤの家から**城壁の曲がり角**の隅まで修復した。

\*“右手の子” \* “よくできた”

\* “ヤハウエは助けられた”



城壁の曲がり角

## 北東 東のやぐら ネヘミヤ3:25～26

ウザイの子**パラル\***は、城壁の曲がり角の部分と、監視の庭のそばにあって上の王宮から**突き出ているやぐら\***を修復した。その向こうでは、パルオシュの子ペダヤと、オフェルに住む宮のしもべたちが、東の方の**水の門**と突き出ているやぐらのそばの部分までを修復した。

\*“審判者”

\*ソロモンの宮殿があったのだろう

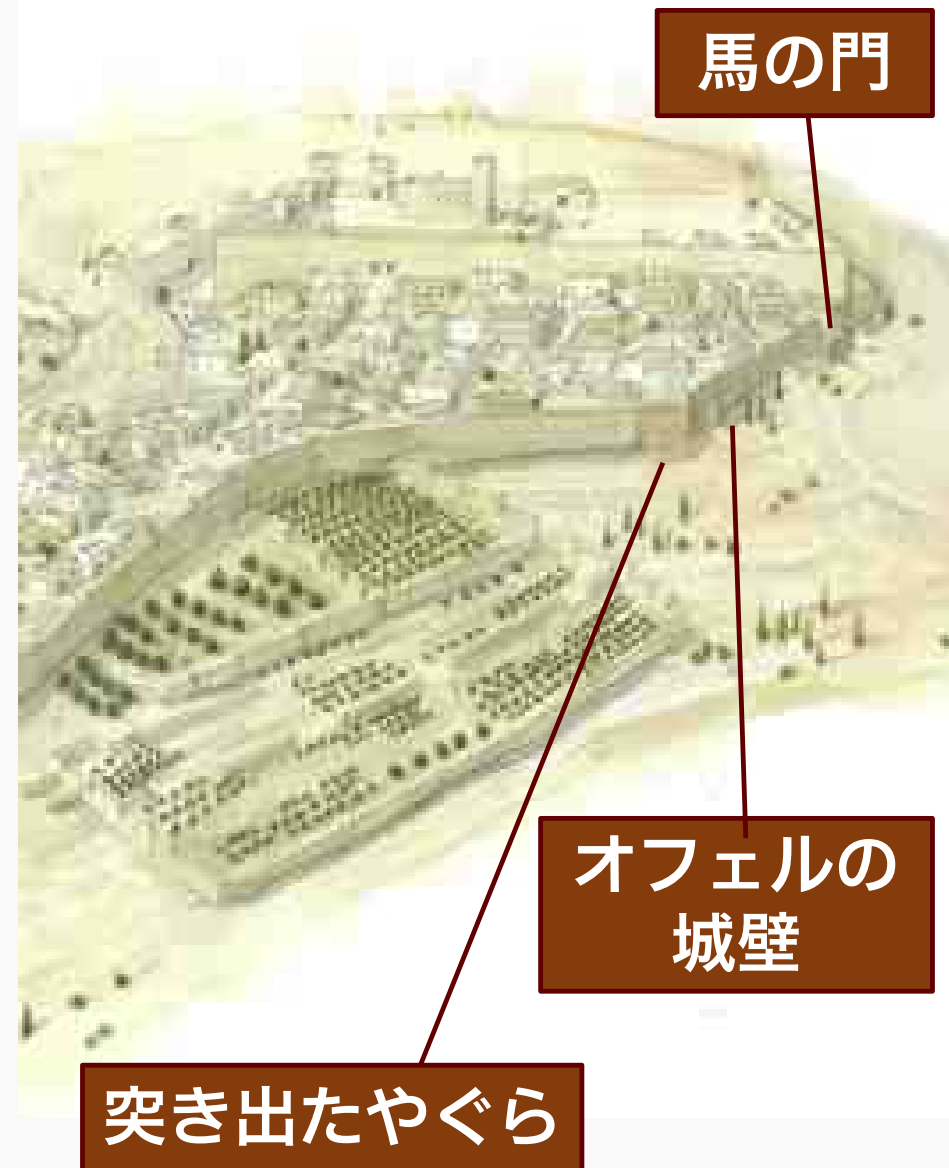




## 北東 馬の門 ネヘミヤ3:27~28

その向こうでは、テコア人が、**突き出ている大きなやぐらのそばからオフエルの城壁**までの続きの部分を修復した。

**馬の門**から上の方は、祭司たちがそれぞれ自分の家のそばの部分を修復した。



## 北東 北東の城壁 ネヘミヤ3:29

その向こうでは、イメルの子ツアドク\*が自分の家のそばの部分修復した。その向こうでは、シェカンヤの子、東の門を守る者シエマヤ\*が修復を行った。

\*“正しい” \* “ヤハウエが聞かれた”



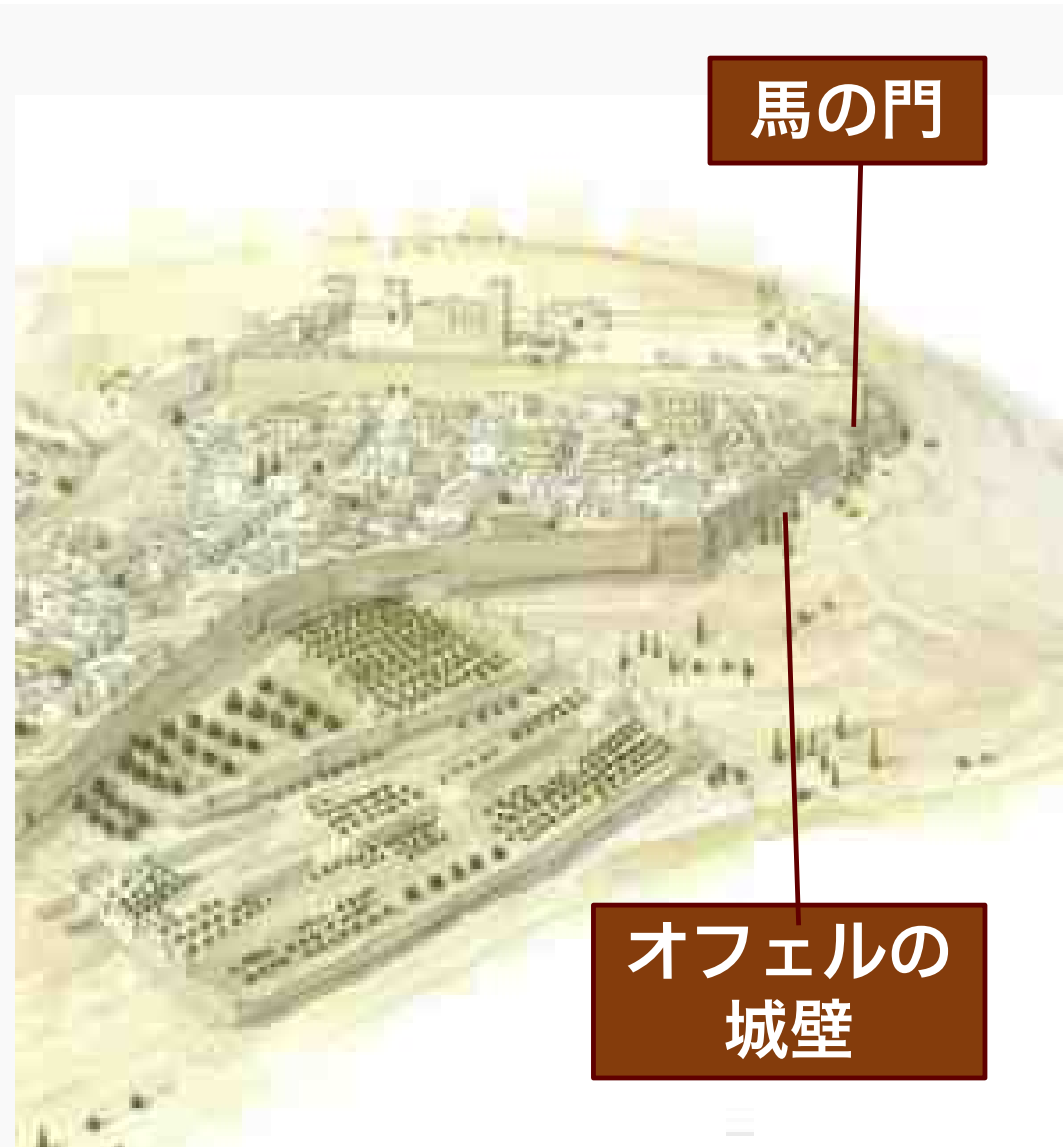
## 北東 北東の城壁 ネヘミヤ3:30

その向こうでは、シェレムヤの子ハナンヤ\*と、ツアラフの六男ハヌン\*が、その続きの部分修復した。その向こうでは、ベレクヤの子メシュラム\*が自分の部屋のそばの部分修復した。

\*“神のご加護”

\*“恵み深い”

\*“友” …北の城壁も担当(3:4)



## 北東 北東の城壁 ネヘミヤ3:31～32

その向こうでは、金細工人の一人マルキヤ\*が、召集の門の向かい側にある、宮のしもべたちや商人たちの家のところまでと、角の二階の部屋のところまでを修復した。

角の二階の部屋と羊の門の間は、金細工人と商人たちが修復した。

\*“我が王はヤハウエ”



馬の門

オフエルの  
城壁



## II. 敵の妨害

ネヘミヤ記5章

## 妨害 サンバラテ ネヘミヤ4:1~2

サンバラテ\* は私たちが城壁を築き直していることを聞くと、怒り、非常に憤慨して、ユダヤ人たちを嘲った。

\*“強さ” …サマリア地方の総督

…エルサレム北東25kmのホロン在住

■最初にネヘミヤと会った時から敵対的



## 妨害 嘲り ネヘミヤ4:2

彼はその同胞とサマリアの有力者たちの前で言った。「この哀れなユダヤ人たちは、いったい何をしているのか。あれを修復して、いけにえを献げようというのか。一日で仕上げようというのか。焼けてしまった石を瓦礫の山の中から拾って、生き返らせようというのか。」

■ 敵の妨害の第一段階は、嘲り

➔ 主への奉仕を

無価値、無意味と思わされる



## 妨害 中傷 ネヘミヤ4:3

彼のそばには、アンモン人\*トビヤ\*がいて、彼も「彼らが築き直している城壁など、狐が一匹上っただけで、その石垣を崩してしまうだろう」と言った。

\*ロトと娘の間に産まれた子の子孫

➔ヨルダン川東岸から脅かしてきた歴史

\*“ヤハウエは善い方”…親が雑婚？

■ 誹謗中傷に乗っかる者たち



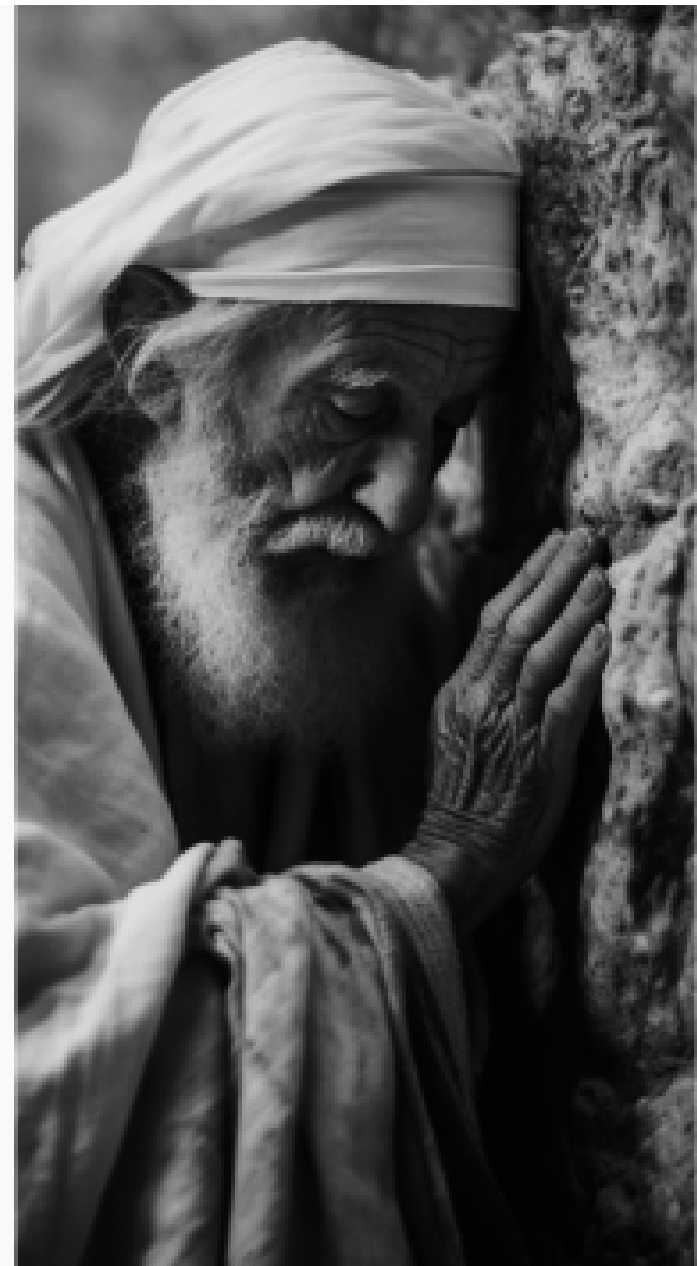


## 妨害 訴え ネヘミヤ4:4~5

「お聞きください、私たちの神よ。私たちは軽蔑されています。彼らの侮辱を彼ら自身の頭上に返し、彼らが捕囚の地でかすめ奪われるようにしてください。

彼らの咎をおおい隠すことなく、彼らの罪を御前から消し去らないでください。彼らが、建て直している者たちを憤慨させたからです」

- 主の御業が軽蔑されている!! → 訴えの中心
- イスラエルを嘲る = イスラエルの主を嘲る



## 妨害 火急の工事 ネヘミヤ4:6

こうして私たちは城壁を築き直し、城壁はすべて、その半分の高さまで\*つなぎ合わされた。民に働く気があったからである。

\*城壁は全部つながれていないと意味がない

➡まずは計画の半分の高さで!!

■敵の攻撃を意識して迅速に進められた工事



## 妨害 激しい怒り ネヘミヤ4:7~8

サンバラテ、トビヤ、アラブ人、アンモン人、アシュドデ人たちは、エルサレムの城壁の修復がはかどり、割れ目もふさがり始めたことを聞いたとき、**激しく怒り\***、皆でエルサレムに攻め入って混乱を起こそうと、陰謀を企てた。

**\*主の御業への激しい怒り** → 悪の本性

■ 城壁の半分を再建し、敵の攻撃を制した。

■ 激しい怒りは、反ユダヤ主義に共通



## 妨害 疲弊する人々 ネヘミヤ4:9~10

そこで私たちは、私たちの神に祈り、彼らに備えて昼も夜も見張りを置いた\*。

ユダの人々は言った。「荷を担ぐ者の力は弱り、瓦礫は山をなしている。城壁を築き直すことなど、私たちにできはしない。」

\*警戒しながらの工事で、精神的負担も増

■肉体的疲労の上に、精神的プレッシャーが



## 妨害 陰謀 ネヘミヤ4:11~12

私たちの敵は言った。「彼らが気づかないうちに、見つけないうちに、彼らの真ん中に入り込み、彼らを殺して、その工事をやめさせよう。」

そのため、彼らの近くに住んでいたユダヤ人たちはやって来て、四方八方から十回も私たちに言った。「私たちのところに戻って来てください\*。」

\*周辺地域から、すでに、

襲撃や小競り合いが始まっていた



## 妨害 激励 ネヘミヤ4:13~14

そこで私は、民をその家族ごとに、城壁のうしろの低い場所の空地に、剣や槍や弓を持たせて配置した。

私は彼らの様子を見て立ち上がり、有力者たちや代表者たち、およびその他の人たちに言った。「彼らを恐れてはならない。大いなる恐るべき主を覚え\*、自分たちの兄弟、息子、娘、妻、また家のために戦いなさい。」

\*真に恐れるべきは敵ではなく、主

→主への恐れが、知恵となり力となる



## 妨害 工事の続行 ネヘミヤ4:15~16

私たちの敵が、自分たちの企みが私たちに悟られたこと、神がそれを打ち壊されたことを聞いたとき、私たちはみな城壁に戻り、それぞれ自分の工事に当たった。

その日以来、私の配下の若い者の半分は工事続け、もう半分は、槍、盾、弓、よろいで身を固めていた。隊長たちがユダの全家を守った。

■ 敵の策略を先手を打って防御

➔ その後も油断なく進められた工事



## 妨害 備えつつ ネヘミヤ4:17~18

城壁を築く者たち、荷を担いで運ぶ者たちは、片手で仕事をし、片手に投げ槍を握っていた。

築く者はそれぞれ剣を腰にして築き、角笛を吹き鳴らす者は私のそばにいた。

■ 防御を並行して進められた工事





## 妨害 連携 ネヘミヤ4:19~20

私は有力者たち、代表者たち、およびそのほかの人々に言った。「この工事は大きく、また範囲は広い。私たちは城壁の上で互いに遠く離れ離れになっている。

どこででも、角笛が鳴るのを聞いたら、私たちのところに集まって来なさい。私たちの神が私たちのために戦ってくださるのだ。」

■ 長大な城壁工事の難しさ

➔ 求められる相互の連携



## 妨害 昼も夜も ネヘミヤ4:21～22

こうして私たちはこの工事を進めたが、その半分の者は、夜明けから星が現れるまで槍を手にしていた。

そのときまた、私は民に言った。「それぞれ自分の配下の若い者と一緒に、エルサレムの内側で夜を明かすようにしなさい\*。そうすれば、夜には見張りがいて、昼には働くことができる。」

\*街を離れず、昼夜交替で働き続けた



## 妨害 警戒の中で ネヘミヤ4:23

私も、私の親類の者も、私の配下の若い者たちも、私を守る見張りの人々も、私たちの中のだれも服を脱がず、水場でもそれぞれ投げ槍を持っていた。





### Ⅲ. まとめと適用

霊的戦いにおける最大の防御とは？

## 神殿再建に伴う戦い

- 城壁再建を知り、**激しく怒った**サンバラテ他、敵対者たち  
→ 主の業に対して理由もなく吹き出る怒りが、**悪の本性**
- 火急、城壁の半分の高さで全部をつなげさせたネヘミヤ  
→ 全部がつながっていないと城壁は意味をなさない
- 油断なく、常に敵に警戒しながら、工事は昼夜絶えず続けられた  
→ 敵は休んではくれない。むしろ常に隙を突いてくる

**ただ主を恐れ、主に与えられた使命に全力を注いだ**

## 城壁再建の原則に学ぶ 【地域教会・適用篇】

- ① 民それぞれに仕事を振り分けた  
→ 信者一人一人が、何かしらの奉仕を担う
- ② 基本的に居住地・仕事場に近い場所を割り当てた  
→ 日常的な生活の場所での主への奉仕の大切さ
- ③ 「羊の門」は、大祭司と祭司たちが担当  
→ 会衆への聖書の解き証しは、責任ある指導者が担当

**信者一人一人の責任に応じて権限が委譲される!!**

## 現状のイスラエルに重ねて考える

- 司法制度改革を巡り、国全体が二分し、激しく対立していた。
  - ➔ 保守と革新、伝統と自由、様々な価値観を巡る決定的な対立
- この状況で敵が攻撃してきたら？  
警鐘を発する人々もいたが、互いの主張の方が激しく…。
- 治安当局は、銃撃テロが頻発する西岸地域に気を取られていた…
  - ➔ イスラエルへの就労者が増えるなど比較的平穏だった筈のガザからの激しいロケット弾攻撃と凄惨なテロが!!

**民の意識はバラバラで、防備には大きな穴が空いていた!!**

## 信仰者個人の靈的戦いへの適用

- 敵は巧みに、私の弱さ、欠けを突いてくる。
- 防御で重要なのは、自分の弱点を正しく認識していること。
  - ➔ 弱い部分を自分で強めるのは、難しい。自ずと限界が!!
- 一番確実なのは、弱い部分を主に委ね、聖霊に満たされること。
  - ➔ 正しい認識・自覚は重要。あとは主にゆだねる!!
- 背後にいる悪魔・悪霊は疲れることはない。攻撃は休まない。
  - ➔ 常に主を見上げて祈る。御言葉を昼も夜も口ずさむ。



## ★ ますます混沌と闇を深める時代にあって ★

■ 逃れようのない現実が、さらに目の前に突きつけられていくだろう。虚実入り混ざった膨大な情報に翻弄されないようにしよう。

■ 現実に向き合う時に、何より欠かせないのは御言葉と祈り。現実が厳しくなるほど、御言葉と祈りを強く意識しよう。

■ いつでも、主の約束を意識して、救いの岩に堅く立とう。主を求め、従う者の必要は、いつでも主が十分に満たしてくださる。携拳の瞬間まで、福音宣教のための小さな平和は与えられ続ける。

**御言葉と祈りによって主の守りの確信を強く保ち続けて行こう**

てん とう つみ  
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ  
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ  
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん  
③ 三日目に復活したこと、を信じます。

しゅ したが あゆ もの こうげき てき まも  
主よ、あなたに従い歩む者を、攻撃する敵からお守りください。

わたし よわ か しゅ みて ゆだ  
私の弱さ、欠けを、主の御手にお委ねいたします。

みことば くち しゅ いの か あゆ  
御言葉を口ずさみ、主への祈りを欠かさず、歩めますように。

しゅ おそ しめい つか もの わたし もち  
ただ主だけを恐れ、使命に遣わされる者として私を用いてください。

しゅ な いの  
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」